

6

快適な生活



6. 快適な生活【生活基盤の整備】

① 自然と生活の環境保全

チャレンジ! ■ 10年後のめざす姿

市民一人ひとりが環境負荷を減らし「うるおいある豊かな環境」をめざすまち

一人ひとりが環境問題を「自分のこと」として捉え、「うるおいある豊かな環境」の保全と創造に向けて意識を高め、行動していくムーブメントが、家族に地域に、まち全体に波及していくことで、めざす姿の実現につながっていきます。

■ 現 状

- 二酸化炭素等温室効果ガスが大量に大気中に放出されることによる地球温暖化が進行しています。
- 地球温暖化が原因と考えられる気候変動の影響による豪雨の増加、大型台風の発生などによる気象災害の影響が懸念されています。

■ 課 題

- 一人ひとりが環境問題を「自分のこと」として捉え、行動していく必要があります。
- 環境負荷の少ないエネルギー施策について、再生可能エネルギーの導入・推進、省エネ対策など、取組を更に推進していく必要があります。

■ 主な取組

- 啓発や事業者の取組PR等により、環境保全意識の高揚を図ります。公民連携
- New!! 公共施設のLED化や公用車のEV化によりエネルギー使用量削減を図ります。
- New!! 再生可能エネルギーの導入拡大を図るため、住宅や工場等への太陽光発電、蓄電池等の導入を支援します。

■ 関連計画

- 松阪市環境基本計画
- 松阪市地球温暖化対策実行計画
- 松阪市ゼロカーボンビジョン

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(年度)	目標(R9年度)	目標種別
温室効果ガス排出量(市全域)R12(2030)年までに47%削減※基準年H25(2013)年	1,254.8千t-CO ₂ (R3)※基準年から17.4%減	954.9千t-CO ₂ ※基準年から37.1%削減	
公共施設のLED化(R12(2030)年までに100%)	66施設(R5累計)30.6%	累計216施設(100%)達成	
公用車のEV化(R12(2030)年までに100%)	4台(R5累計)3.0%	累計79台(59.4%)達成	

横断的取組

● 公民連携の推進

- 市内事業者、民間団体との連携を強化し環境保全意識の高揚・啓発を図ります。
- 企業等との連携を推進し、さまざまな脱炭素化施策に取り組みます。

■ 市民ができること

- ◆ 一人ひとりが環境問題を「自分のこと」として捉え、環境に負荷をかけない生活に転換していきましょう。
- ◆ 節電や節水、自転車等の利用など、身近な省エネ行動を実践しましょう。
- ◆ 宅配便はなるべく1回で受け取りましょう。
- ◆ 環境や脱炭素に関するさまざまなイベントに参加しましょう。

6. 快適な生活【生活基盤の整備】

②資源循環型社会の推進

チャレンジ! ■ 10年後のめざす姿

ムダなく資源が循環しているまち

脱炭素につながる豊かな暮らしの中で、限りある資源を効率的に活用し、持続可能な形で循環させて利用することで、10年後もうるおいのある豊かな環境にまつまれるまちであり続けることをめざします。

■ 現 状

- ごみを取り巻く環境分野における社会情勢は、脱炭素化の動きの加速化など大きく変化しています。
- 近年のごみ量はほぼ横ばいで推移しており、資源化量は減少傾向となっています。
- 不法投棄については、毎年廃棄家電等が一定量発生しています。

■ 課 題

- 市民意識調査をもとに、市民ニーズを的確に把握したごみ減量施策が重要です。
- ナッジ等を活用した新たな3Rの啓発や、行政と民間が連携した資源化の促進に取り組むことが必要です。
- 不法投棄・ごみ持去り防止のために、広域的かつ効果的な監視パトロールや啓発手法を取り入れる必要があります。

■ 主な取組

- **New!!** 新最終処分場における埋立処分開始に合わせて焼却灰等の資源化に取り組み、脱炭素社会の形成に寄与します。
- ごみ減量・3R推進(3切り運動、3010運動等)や環境教育等に取り組みます。
- 不法投棄・ごみ持去り防止の監視パトロールの強化と啓発を行います。
- 家庭系ごみの削減(生ごみ堆肥化等)の多角的な啓発に取り組みます。
- 食品ロス削減について食品事業所等と連携体制の構築を図り、啓発に取り組みます。**公民連携**

■ 関連計画

- 松阪市環境基本計画
- 松阪市ゼロカーボンビジョン
- 一般廃棄物(ごみ)処理基本計画
- 新最終処分場基本構想
- 松阪市循環型社会形成推進地域計画

● 数値目標 ●

項目	現状(R5年度)	目標(R9年度)	目標種別
資源化率(総ごみ量に対する総資源化量の占める割合)	9.90%	24%以上	↗
家庭系ごみ(集団回収を含む)1人1日当たりのごみ排出量	680g	646g以下	↘
市民意識調査に係る廃棄物(ごみ)対策に対する満足度	3.19/5	3.30/5	↗
最終処分量の減量	6,922t	1,200 t 以下/年度	↘

横断的取組

● 公民連携の推進 ●

- 生ごみ堆肥化や食品ロス削減に関し、市民グループを支援し、民間事業者等との連携を強化していきます。

■ 再定義の視点

- ◆ 家庭での一人ひとりが取り組むごみの減量化は、温室効果ガスの削減につながっています。

■ 市民ができること

- ◆ 野菜や魚の生ごみは、できるだけ水分を切って捨てましょう。
- ◆ 不用になってしまったものをすぐには捨てず、人に譲るなど活用する方法を考えましょう。
- ◆ 外出先ではごみを持ち帰り、自宅で分別して捨てましょう。
- ◆ 使い捨てプラスチックの使用をなるべく減らしましょう。

6. 快適な生活【生活基盤の整備】

③地域公共交通の充実

チャレンジ! ■ 10年後のめざす姿

気兼ねなく利用できる地域公共交通をみんなでつくる

路線バス等の地域公共交通は暮らしの基盤サービスであるため、市民一人ひとりが公共交通を活用することで、サービス性の高い公共交通をみんなで作っていきます。

■ 現 状

- 移動手段について困っている方は少数ですが、市内に点在しています。
- 市民の移動手段の大半は自動車です。
- コミュニティ交通の利用者数が減少する一方で、運行経費が増加しています。

■ 課 題

- 地域公共交通は利用者の減少やドライバー不足により危機的状況にあります。
- 危機的状況の公共交通に対して、市民の関心が低いままで。
- MaaS*や自動運転等様々なサービスが新しく立ち上がっており、検討が必要です。
※複数の交通手段を最適に組み合わせて、「検索」「予約」「決済」等の行為を一括して行えるサービス。

■ 主な取組

- New!!** 山間部の交通手段を確保していきます。
- New!!** 地域主体の交通として、地域住民と行政が協働して整備する交通手段である「お出かけ交通」を推進していきます。
 - 現在のコミュニティ交通のサービス水準の維持を目的として、運賃の在り方を検討していきます。
 - 利用促進のための啓発活動や運行情報の改善に取り組みます。
- New!!** IT技術を導入し、利用者数の増加や満足度アップを図ります。

■ 関連計画

- 松阪市地域公共交通計画

● 数 値 目 標 ●

項 目	現状(R5年度)	目標(R9年度)	目標種別
住民1人あたり公共交通機関年間利用回数	7.16回	8回	↑
路線バス年間利用者数	998千人	1,136千人	↑
鈴の音バス(市街地循環線)地域負担率	28.5%	39.9%	↑

横断的取組

- **若者定住・福祉社会の実現**
- 貴重な財源を効果的・効率的に活用し、デマンドバスやライドシェアのような運行形態を含めた多様な移動手段を検討し取り組んでいくことによって、免許を持たない若者や高齢者等のいわゆる交通弱者の移動手段の選択肢を広げることができます。
- **公民連携の推進**
- 国が実践する自動車活用事業について、タクシー協会と協力して検討を進めます。

再定義の視点

- ◆ 高齢者が意識的に公共交通機関を利用いただくことで、免許返納率が向上し高齢者による交通事故を未然に防ぐことにつながります。

市民ができること

- ◆ わたしたちの暮らしを支える公共交通を未来へ維持していくために、公共交通機関を利用しましょう。

6. 快適な生活【生活基盤の整備】

④ 都市空間・住環境の整備

チャレンジ! ■ 10年後のめざす姿

誰もが安心して心豊かに暮らせる魅力あるまち

人口減少や高齢化が進むなか、安心して居住ができ、かつ、松阪らしい景観や地域の特性を生かした都市空間・住環境を整備することで、人々の活気があふれるまちの実現をめざします。

■ 現 状

- 管理不全の空き家等が増加し、周辺住民へ被害を及ぼす可能性が高まっています。
- 市営住宅や付帯施設の老朽化が進んでいます。
- 人口減少などが進み、空き家・空き部屋が増加しています。
- 公園の休憩施設や遊具の老朽化が進んでいます。
- 世代交代等により、土地の境界が不明瞭になる可能性が高まっています。
- 若者定住を進める上でも、まちの生活基盤の整備が求められています。

■ 課 題

- 空き家所有者等の管理意識の改善や、相続問題の解決、費用負担の支援等が必要です。
- 耐用年数が過ぎた市営住宅は、管理コスト削減のため用途廃止が求められています。
- 経年劣化により、老朽化した公園施設の更新が必要となります。
- 官有地を適正に管理する為に、土地の境界を明瞭にする必要があります。
- 生活基盤整備のための雇用を生む、新たな産業用地の創出が必要となっています。

■ 主な取組

- 空き家等に関する地域住民や所有者等からの相談の解決に努めます。
- 空き家等の状態に応じて利活用の推奨や除却の支援に取り組みます。
- 市営住宅の集約化に向けて、老朽化した市営住宅からの住替えを進めます。
- 宝塚団地・上川町団地の用途廃止(解体・除却)を行います。
- **New!!** 地区計画制度等の活用による既存集落や市内産業の活性化を推進します。
- 松阪駅西複合施設整備に関して民間事業者を募集します。**公民連携**
- 松阪市公園長寿命化計画に基づき、公園施設の保全に努めます。
- 景観条例や景観計画に基づく届出制度を運用し、まちなみに適した景観誘導に取り組みます。
- 一筆地調査の推進により民有地と官有地の境界確認に努めます。

■ 関連計画

- 松阪市空家等対策計画
- 松阪市国土強靱化地域計画
- 松阪市公共施設等総合管理計画
- 松阪市公営住宅等長寿命化計画
- 松阪市都市計画マスタープラン
- 松阪市立地適正化計画
- 松阪市地域公共交通計画
- 「豪商のまち松阪」中心市街地土地利用計画
- 松阪駅西地区複合施設基本構想
- 松阪市景観計画
- 松阪市環境基本計画

● 数値目標 ●

項目	現状(R5年度)	目標(R9年度)	目標種別
C判定空家等(※)の解消数(累計) ※住めない空家(居住するには建て替え又は相当な修繕等が必要)	60軒	300軒(R9)	☑
老朽化住宅からの住替え件数(累計)	82戸	96戸	☑
宝塚団地・上川町団地の解体棟数(累計)	8棟	22棟	☑
公園施設長寿命化工事の実施数	0施設	318施設	☑

横断的取組

- **若者定住・福祉社会の実現**
- 空き家等の利活用を促進することによって、若者定住にもつなげていきます。
- 中・低層の耐火構造及び耐震性を有している市営住宅へ住替えることによって、居住の安定を図ることができます。
- 市民のニーズに沿った公園づくりを進めることで、全ての市民にとって満足度の高い都市空間を提供することができます。
- **公民連携の推進**
- 空き家対策の関係団体で構成するネットワーク組織と連携して空き家無料相談会を開催し、所有者等の悩み事の解決につなげます。
- 管理運営などを公民連携することが、市民のニーズに合った利便性の高い公園づくりに役立ちます。

再定義の視点

- ◆ 空き家等の除却は、地域の防災対策にもつながっています。
- ◆ 住替えによる市営住宅の用途廃止によって、管理コストの縮減にもつながっています。
- ◆ 都市公園の整備によりスポーツと連動したまちづくりにもつながっています。
- ◆ 文化的景観を維持することで、地域の魅力が向上し、観光客の増加につながることを期待されます。
- ◆ 都市景観や自然環境を保護することで、市の魅力を高め、観光客の増加につながることを期待されます。

市民ができること

- ◆ 将来空き家にならないように、生前から「住まいの終活」を進めましょう。
- ◆ 公園をきれいに利用しましょう。
- ◆ 公園施設の不具合や危険箇所を見つけたら公園の管理者へ通報しましょう。

6. 快適な生活【生活基盤の整備】

⑤ 道路等の整備

チャレンジ! ■ 10年後のめざす姿

安全で快適な道路のあるまち

市民の生活に必要な不可欠な生活基盤である道路及び橋りょうの整備、維持管理を行うことにより、市民が安全安心で快適な生活ができるまちづくりを進めます。

■ 現 状

- 毎年の道路修繕及び道路に付属する設備等に対する要望が2,000件程度あります。
- 舗装面の老朽化が進み、舗装の打替えが必要な道路があります。
- 橋りょうの老朽化が進み、部材の経年劣化により、修繕が必要な橋りょうがあります。
- 緊急車両等が侵入できない狭い道路があり、安全で住みよいまちづくりの妨げとなっています。

■ 課 題

- 既存道路や付属する設備等の維持修繕は、地域のニーズを踏まえながら進めていく必要があります。
- 市が管理している道路は路線数が多く延長も長大であることから、計画的に道路舗装を修繕する必要があります。
- 橋りょうの損傷が進行する前に、修繕を行い長寿命化を図る必要があります。
- 交通環境の向上や地域間連携を強化するため、生活道路の改良が必要です。

■ 主な取組

- **New!!** 緊急輸送道路等、重要な道路から表層の打替え工事を進めます。
- 狭あい道路の拡幅に伴い、土地を市へ寄附された所有者等に対して支援を行い、必要な用地を確保します。
- 橋りょうは予防保全的な修繕対策と耐震補強対策の両輪で長寿命化を進めます。
- 地域と対話しながら利用状況に沿った道路整備に取り組みます。
- 快適な道路環境を確保するため道路改良事業を進めます。
- 自治体総合アプリ(松阪ナビ)での道路情報アプリを活用し、修繕が必要な道路箇所をいち早く修繕することで予防保全に努め、維持修繕コストの軽減を図ります。

■ 関連計画

- 松阪市公共施設等総合管理計画
- 松阪市国土強靱化地域計画
- 松阪市橋梁長寿命化修繕計画

● 数値目標 ●

項目	現状(R5年度)	目標(R9年度)	目標種別
舗装修繕延長	1.3km	5.0km	↗
狭あい道路整備促進補助金 補助件数(累計)	172件	330件(R9)	↗
2巡目点検に基づき対策が必要な橋りょうの修繕数(累計)	0橋	26橋	↗
道路整備の完成路線数	0路線	6路線	↗

横断的取組

- 若者定住・福祉社会の実現
- 狭あい道路を拡幅し、市民が安全安心で快適な生活ができるまちづくりを進めることによって、若者定住や福祉社会への対応にもつなげていきます。
- 公民連携の推進
- 道路維持にかかる危険箇所を市内で活動している郵便局や運搬事業者と連携し、早期発見をめざします。

再定義の視点

- ◆ 舗装を打ち換えることで、車両の通行がスムーズになり事故の軽減にもつながります。
- ◆ 緊急輸送道路を整備することで災害発生時に機能する輸送ルートが確保されます。
- ◆ 狭あい道路を拡幅することは、地域の防災対策にもつながっています。
- ◆ 道路網の整備により企業誘致・連携の推進と、防災・危機管理対策の充実につながっています。

市民ができること

- ◆ 道路の破損や危険箇所を松阪ナビで投稿しましょう。
- ◆ 狭あい道路問題の解消のため、後退用地の適切な維持管理又は寄附をしましょう。

6. 快適な生活【生活基盤の整備】

⑥ 上下水道の整備

チャレンジ! ■ 10年後のめざす姿

災害に強い水道と下水道の整備が進むまち

生活に直結する重要なライフラインである水道施設の耐震化を進め、災害による施設被害を最小限にすることで給水を早期復旧させることや、汚水を適正に処理して公共用水域の水質を守るとともに、雨水排水対策を進めることで、安定した生活環境を確保していくことをめざします。

■ 現 状

- 水道水の供給開始から70年以上が経過しているため、水道施設の老朽化が進んでいます。
- 大規模地震への対応も含めて老朽管更新と耐震化の整備が求められています。
- 人口減少に伴う水需要の低下やそれに伴う給水収益の減少などにより、事業運営は年々厳しくなっています。
- 公共下水道の普及率は全国平均を下回っています。
(全国81.0% R4年度末 松阪市63.1% R5年度末)

■ 課 題

- 水道施設の老朽化に伴い、今後は更新費用が増えていきます。
- 人口減少などに伴い、水道水の需要が減っていくため施設の規模の見直しが必要です。
- 公共下水道事業を推進するためには、多額の費用と時間が必要です。

■ 主な取組

- 水道管路の耐震化と老朽管の更新を進めます。
- 安全安心な水道水の安定供給を行います。
- 水道施設(配水ポンプ場)の統廃合を進めます。
- 公共下水道整備(汚水・雨水)事業を進めます。

■ 関連計画

- 松阪市水道事業ビジョン
- 松阪市生活排水処理アクションプログラム
- 松阪市都市計画マスタープラン
- 松阪市国土強靱化地域計画
- 松阪市水道事業経営戦略
- 松阪市公共下水道事業経営戦略

● 数値目標 ●

項目	現状(R5年度)	目標(R9年度)	目標種別
水源の水質事故件数	0件	0件	➡
基幹管路の耐震化率	39.7%	42.1%	↗
下水道普及率	63.1%	63.7%	↗
上水道の整備に対する市民満足度	3.61/5	4.00/5	↗
下水道の整備に対する市民満足度	3.24/5	3.50/5	↗

横断的取組

- 若者定住・福祉社会の実現
- 水道管路の耐震化や更新によって、安定した水道水の供給ができます。
- 下水道の普及と雨水排水対策により、公共用水域の水質と生活環境が守られます。
- 公民連携の推進
- 避難所や医療施設へ応急給水を行い、必要に応じて市民に応急給水栓や飲料用簡易水槽等の管理、給水袋の運搬の協力を要請します。

■ 再定義の視点

- ◆ 水道管路の耐震化や更新は災害被害を最小限にとどめ、市民生活の早期再建につながります。
- ◆ 水道管路の新設(ループ化)や更新、耐震化は、大規模地震などの災害被害を最小限にとどめ、市民生活の早期再建につながるとともに、消火活動の迅速化にもつながります。

■ 市民ができること

- ◆ 水の大切さを認識し、水源を守っていきましょう。
- ◆ 公共下水道が整備されたら、遅滞なく下水道に接続しましょう。

